

巻頭特集

知る・ふれる・楽しめる！

もっと知る！

『かわら美術館』



高浜市を代表する産業といえば、なんといっても「瓦」。日本で唯一「この瓦をテーマにした美術館」が「高浜市やきもの里かわら美術館」です。展覧会の開催はもちろん、芸術文化活動の拠点としてもっと利用してほしい！もっと親しんでほしい！そんな思いを込めて、地元の誇る必見スポット「かわら美術館」の多彩な魅力を紹介します。



歴史や造形、文様の美
じっくり見られる「常設展」

「高浜市やきもの里かわら美術館」(以下「かわら美術館」)では、日本や世界の瓦やきもの、瓦に関する絵画や写真などを収集し、紹介しています。その中で、瓦やその文様を美術的に鑑賞して楽しめるのが、常設展「瓦文様とやきものの美」です。

常設展示室では、壁に沿った三方に丸瓦や平瓦の瓦当(がとう)・軒先を飾る瓦)が展示されています。中国・朝鮮を経て伝わってきた瓦の歴史、日本での発展・変容、美しい文様の数々が見られ、時代背景と合わせ瓦の持つ意味や役割なども知ることができます。フロア中央では三州瓦やい

ろいなやきものなどが見られます。高浜市指定文化財で市内に残る最古(1723年)の銘が刻まれた「瓦焼狗犬」、「名古屋汎太平洋平和博覧会」(1937年)で銅牌を受賞した鬼瓦「三重影盛菊水模様・立波台付」の豪華な透かし彫りなど、どれも三州瓦の職人の技が感じられる作品ばかり。そして展示室前のフロアに

は、地元エリアの瓦なども展示されています。ユニークなのは「三河木綿産業を支えた「糸車」の重しとして使われた「押さえ瓦」。瓦を見ることで人々の暮らしや文化にまで思いを巡らせることもでき、とても興味深い展示となっています。展示は音声ガイドや解説シートもあるのでわかりやすく、さらに学芸

▼素朴なものからより流麗な作りへ、幾何学文から蓮をモチーフにした蓮華文、唐草文や巴文へと文様が移り変わっていく様子など、瓦の変遷がわかります



▲奈良・東大寺大仏殿の瓦の模様。手にとって大きさや重さを体感したり、浮き彫りにされた文字にふれてみて

陶芸・絵本原画・平和：多彩なテーマの「特別展」

また、陶芸はもちろん、絵本原画や平和に関する内容が多く取り上げられているのが「特別展」です。「ものづくり」へのリスペクトから開催された「ウルトラマン創世紀展」(2013年7-9月に開催)や、すでに8回を数えファンも多いという「イタリャ・ポロ」ニヤ国際絵本原画展」など、多彩な視点からさまざまなテーマで開催されています。



▲「ボーダレス・アート・コレクション」より、川上建次「赤い兄弟」(2010年)



▲「鬼と妖怪の造形-水木しげるの作品とともに-」より、「おとろし」©水木プロダクション



▲「画家の魂・パレットとその作品」より、サルバドール・ダリのパレット



▲地域のブランド作りと障がい者の手仕事をつなぐ、「wakolab」の作品。高浜の鬼瓦職人の前掛けからヒントを得たトートバッグは、障がい者施設で縫製された人気商品(2,000円〜)



▲箸置き(400円)、ペーパーウエイト(1,200円)などの瓦アレンジものは、大きさも値段も手頃でお土産にぴったり。竹とんぼ職人が作った「ミラクル竹とんぼ」も人気。カラフルでかわいいうえに、驚くほどよく飛ぶ!

今後の予定は、3月30日まで同館所蔵の写真家・井上博道(はくどう)さんの写真と瓦を合わせて展示する「古都・奈良を愉しむ」を開催。4月12日〜5月25日は「ボーダレス・アート・コレクション」、7月19日〜9月15日は「鬼と妖怪の造形-水木しげるの作品とともに-」、9月27日〜11月9日は「プラティスラヴァ世界絵本原画展」、11月15日〜2015年1月11日は「土の物語-ヒメナ&ステイブン」、2015年1月17日〜3月1日は「画家の魂・パレットとその作品」とどれも見逃せません。詳しくは同館HPをご覧ください。



リピーター多し！
気軽に土と遊べる陶芸体験

同館では、瓦と同じ「やきもの」にふられる「陶芸創作体験」が各種揃っています。「陶芸体験半日コース」では、自分で土を練りロクロを回して形を作る手びねりや、電動ロクロ(2回目以降)にも挑戦することができ、親子一緒に楽しめるほか、小学校中学年くらいからなら1人でも大丈夫。また、陶芸用のクレパスでお皿やマグカップに色を塗ったり絵を描く「絵付体験」や、鬼面など石ころの型に粘

土をつめて抜くだけという「型抜き」もあり、お絵描きや粘土遊びの感覚で楽しめるので、小さなお子さんでも気軽に体験できます。他にも、月に1回のペースで季節のテーマなどに合わせて創る「半日イベント講座」や、電動ロクロを使った本格的な「連続教室講座」もあります。

いずれの体験も、指導員が親切丁寧に教えてくれます。費用も手頃とあって評判もよく、何度も訪れるリピーターも多いとか。受付は休館日以外の毎日、電話予約優先ですが、空きがあれば当日でも体験OK!展示を見て創作意欲が高まったところでぜひ陶芸体験...というのも盛り上がりそうです。

など、設備の整った施設を芸術・文化活動に利用することができます。美術館が閉館した後でも21時まで利用できるのも、趣味やサークル活動の練習などにもとても便利。使用料や申し込み方法など、詳しくは同館へお問い合わせを。

瓦はもちろん、展覧会や陶芸など、芸術を身近に感じられるかわら美術館へ遊びにきてくださいね。



「かわら美術館」広報 香村知子さん

【高浜市やきもの里かわら美術館】
住 高浜市青木町九丁目6-18
☎ 0566-52-3366
http://www.takahama-kawara-museum.com/